



今月号は G 部門の紹介をします！

G 「ICT ってなあに？」～子どもたちの「できた！」を支える G 部門の取組～
ICT と聞くと、「新しい機械をとりあえず使っているのかな？」「学校はよく ICT っていうけどよくわからない」というご意見もあると思います。

一般的に ICT とは、コンピュータだけでなく、ネットワークを活用して情報や知識を共有し、コミュニケーションを促進する技術全般を指します。学校では、タブレット端末やパソコン、スイッチ、視線入力など、子どもたちの「やってみたい」「伝えたい」をそっと後押ししてくれる道具として活用しています。コロナ禍をきっかけに、学校でも ICT 機器の整備が進み、特別支援教育でも、一人ひとりに寄り添った学びを支えるために有効な手段として広がってきました。

G 部門では、ICT 機器を「使うこと」を目的にしているわけではありません。児童生徒が学習の目標に向かって、自分のペースで取り組めるようにするための「やさしい手助け」として利用しています。

今年度の「図工・美術」では、タブレット端末でゴッホの名画「星月夜」の世界を自由に見て味わったあと、その時に感じた色や動きをもとに、絵の具を塗り付けたボール型のロボットを直感的に操作して、模造紙の上を走らせながらイメージを描き出す活動をおこないました。教員が手を添えがちな教科だからこそ、ICT 機器を使うことで「児童生徒が主体」の表現が生まれたことは、私たち教員にとっても大きな気づきでした。

また、G 部門は「かながわトリプルアイ PROJECT」にも参加しています。これは、県立特別支援学校の教員有志による、肢体不自由のある子どもたちにとってより良い学習の形を探す活動です。今年度は「知的な遅れを併せもつ子どもにとって、教科の中でどんな学び方が無理なく、その子らしさを活かせるのか」をテーマにしています。G 部門では、「図工・美術」の取り組みを通して、ICT 機器を活用した実践を積み重ね、研究チームに共有しています。

ICT 機器の活用によって、児童生徒が自ら動き、表現し、学ぶ姿が増えてきました。これからも一人ひとりの「できた！」を大切にしながら、無限大の可能性を秘めた「ひみつ道具」を、教員も一緒に楽しみながら日々の教育活動に生かしていきます。



この絵は「ぐるぐる」しているな～



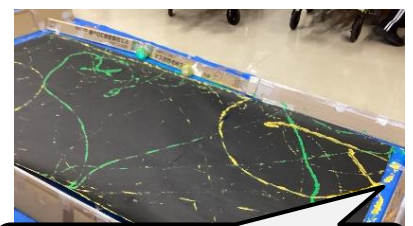
こんなふうにくみあわせてみたよ！



このロボットはゆびでかいた
とおりうごいてくれるよ！



ロボットに絵の具をぬっちゃえ！



ゴッホの「ぐるぐる」みたいにおおきな紙に絵がかけたよ！